



Fiery JobFlow

© 2015 Electronics For Imaging, Inc. 本書に記載されている情報は、本製品の『法律上の注意』の対象となります。

2015年7月24日

目次

Fiery JobFlow	5
Fiery JobFlow のインストール	5
Fiery JobFlow ライセンスのアクティベーション	5
Fiery JobFlow ライセンスの手動でのアクティベート解除	6
Fiery JobFlow の使用方法	6
Fiery JobFlow ワークスペース	7
ユーザー権限	7
Fiery JobFlow の設定	7
アカウント設定	8
モジュール設定	10
リソースのインポート	11
ワークフローの作成	12
モジュールについて	13
ワークフローの複製	14
ワークフローへのルールの追加	14
入力ソース	15
Fiery Preflight	15
プリフライト設定	16
Impose 設定	17
修正の設定	17
承認の設定	18
ジョブ情報	19
ジョブの送信	19
ジョブの監視	20
ジョブの表示	20
ジョブレポートの生成	20

Fiery JobFlow

Fiery JobFlow は、プリプレスワークフローを提供するブラウザーベースの製品です。この製品を使用すると、オペレーターは、PDF 変換、プリフライト、PDF ファイルの修正、高品位イメージ画像処理、書類の面付け、ジョブのチケット発行、承認など、繰り返し行うタスクを定義して自動化できます。

SmartFolder、Dropbox アカウント、SMB、FTP、sFTP の場所から Fiery JobFlow にファイルをインポートできます。インポートしたファイルにワークフローを設定し、Fiery サーバー、Fiery Central プリンターグループ、Dropbox アカウント、SMB、(s) FTP の場所から出力できます。各種モジュールでジョブが処理される際に、E メール通知の送信で最新状況を確認できます。

Fiery JobFlow アプリケーションは Windows クライアントコンピューターにインストールされ、Fiery JobFlow サーバーとして動作します。

Fiery JobFlow Base は、Fiery JobFlow の無償版であり、Fiery Extended Applications (FEA) 4.3 で利用できます。Fiery JobFlow Base は、PDF 変換、Fiery Preflight、高品位イメージ画像処理、書類の面付けと、ジョブの送信やアーカイブや出力の多様なオプションをサポートしています。

Fiery JobFlow に関する詳細は、[Fiery JobFlow のインストール \(5 ページ\)](#) を参照してください。システム要件については、<http://w3.efi.com/en/Fiery/Products/Workflow-Suite/Fiery-JobFlow/Specifications> を参照してください。

ライセンス版の Fiery JobFlow では、ルールベースのワークフロー、高度なプリフライト、Enfocus PitStop Pro を使用した PDF 編集、およびクラウドベースの承認プロセスといった機能を使用できます。Fiery JobFlow ライセンスをアクティベートするには、<https://passport.efi.com> で EFI Passport への登録が必要です。

Fiery JobFlow のこのリリースに関する重要な情報については、http://help.efi.com/jobflow/jobflow_releasenotes21.pdf で使用上の注意を参照してください。

バージョン 2.1

Fiery JobFlow のインストール

Fiery JobFlow は、Fiery Extended Applications Package に含まれる Fiery Software Manager を使用してインストールします。

Fiery JobFlow のインストールの詳細については、『インストールガイド：Command WorkStation 5.7/Fiery Extended Applications 4.3』および『使用上の注意：Fiery Extended Applications Package 4.3』（<http://help.efi.com/fea/index.html>）を参照してください。

メモ：デフォルトでは、ジョブの入力場所は Fiery JobFlow の SmartFolder です。Fiery JobFlow のインストール時に、インストーラーによって、空き領域の多いドライブが自動的に検出され、SmartFolders という名前のフォルダーが作成されます。Fiery JobFlow では、このフォルダー内に、Fiery JobFlow で作成するワークフローごとのフォルダーが作成されます。すべてのユーザーがジョブを送信できるように、SmartFolder はネットワーク上で公開されます。

Fiery JobFlow ライセンスのアクティベーション

完全バージョンの Fiery JobFlow には、ライセンスと EFI Passport への登録が必要です。

EFI Passport とは、EFI カスタマーが複数の EFI 製品およびサービスにアクセスするための新しい無料のアカウントシステムです。登録は、<https://passport.efi.com> から行うことができます。登録が完了すると、アクティベーションリンクが E メールで送信されます。アカウントを使用するには、まず、EFI Passport アカウントをアクティベートする必要があります。

EFI Passport アカウントをお持ちでない場合は、Fiery JobFlow Base を Fiery JobFlow にアップグレードする手続きを始める際に、登録を要求されます。

この手続きは、次の手順で行います。

- 1 無料の Fiery JobFlow Base をインストールします。
- 2 EFI Passport アカウントに登録します。
- 3 Fiery JobFlow ライセンスキーを購入します。
- 4 Fiery JobFlow Base にログインし、「今すぐアップグレード」をクリックします。
- 5 ウィザードの手順に従います。

Fiery JobFlow ライセンスの手動でのアクティベート解除

別のコンピューターに割り当てるために、管理者は手動で Fiery JobFlow ライセンスをアクティベート解除できます。

- 1 「Fiery JobFlow」ウィンドウ左下の「情報」をクリックします。
ライセンスコードが、その下の「ライセンスをアクティベート解除する...」リンクとともに表示されます。
- 2 「ライセンスをアクティベート解除する...」をクリックします。
- 3 「ライセンスをアクティベート解除する」ウィンドウで、テキストフィールドに **DEACTIVATE** と入力し、「アクティベート解除」をクリックします。

再度ライセンスのアクティベーションを行うには、ブラウザでアクティベート解除した Fiery JobFlow に接続し、ライセンスキーを入力します。

Fiery JobFlow の使用方法

インストールが完了すると、Fiery JobFlow はサーバーとして動作し、コンピューターのデスクトップからショートカット（インストール時に自動的に作成されます）でアクセスすることができます。

インストール後にはじめて Fiery JobFlow を起動する際に、管理者は管理パスワードを作成し、Fiery サーバーまたは Fiery Central サーバーに IP アドレスを登録します。

別のクライアントコンピューターから Fiery JobFlow サーバーにアクセスするには、Fiery JobFlow がインストールされているコンピューターの IP アドレスかドメイン名が必要です。接続には、ブラウザを使用します。サーバーの IP アドレスがわからない場合、Fiery JobFlow 管理者に確認してください。

メモ:別のコンピューターから Fiery JobFlow サーバーに接続する場合、URL は `http://<IP アドレス>/jobflow/login` という形式になります。Fiery JobFlow を実行しているコンピューターの場合、URL は `http://localhost/jobflow/login` となります。

Fiery JobFlow のアクセスレベルには、管理者、オペレーター、ゲスト、外部レビューアの 4 つがあります。管理者パスワードは、インストール時に設定します。

Fiery JobFlow ワークスペース

ブラウザに、Fiery JobFlow ウィンドウが表示されます。

Fiery JobFlow には次のコンポーネントが含まれています。

- 「ワークフロー」タブ：ワークフローの新規作成、編集、削除が可能。ワークフローは、使用可能なモジュールを選択して作成
- 「ジョブ」タブ：ジョブの進捗を監視。実行中のジョブ、エラーが発生しているジョブ、完了したジョブを確認可能。ジョブの内容の表示も可能
- 「Admin」メニュー：管理者タスク（「アカウント設定」、「モジュール設定」、「リソース」）にアクセス

無料の Fiery JobFlow Base をお使いの場合、ブラウザには「今すぐアップグレード」ボタンも表示されます。ライセンスが必要なバージョンである Fiery JobFlow にアップグレードする場合、このボタンをクリックします。

Fiery JobFlow のアップデートは、Fiery Software Manager を通して管理されます。これには、Windows タスクバーのアイコンからアクセスできます。「アップデートを確認」アイコンは、「Fiery Software Manager」ウィンドウの右上隅にあります。

ユーザー権限

Fiery JobFlow では、ユーザー権限によってサーバーへのアクセスレベルが分かれています。

- 管理者：すべての「Admin」設定の指定、リソースのアップロードや管理、ワークフローの作成、すべてのユーザーのジョブの編集や削除など、すべての Fiery JobFlow 機能に完全にアクセス可能
管理者パスワードは、インストールとアクティベーション処理の中で設定します。
- オペレーター：ジョブの送信、ワークフローの作成、作成したワークフローの編集と削除が可能。オペレーターはジョブの削除も可能。リソースや「Admin」メニューのその他の設定を表示できるが、変更は不可
- ゲスト：ジョブの送信、Fiery JobFlow サーバーでの自分のジョブの進捗の表示が可能。ゲストには、「Admin」メニューは表示されない
- 外部レビューア：任意の場所からジョブの承認または却下を実行。外部レビューアは、Fiery JobFlow サーバーに直接アクセスすることはできないが、Fiery JobFlow 管理者からのジョブのレビューリクエストを Eメールで受信する。外部レビューアは、ジョブの内容や PitStop Enfocus レポートを参照してジョブの承認/却下を行うことが可能

メモ: Fiery JobFlow サーバーに直接アクセス可能なユーザーは、内部レビューアに指名できます。

Fiery JobFlow の設定

Fiery JobFlow 管理者は、「Admin」メニューから Fiery JobFlow サーバーの設定を行います。

「Admin」メニューから、次のタブにアクセスできます。

- アカウント設定：「プロフィール」、「通知」、「ユーザー管理」、「サービス」、「場所」、「バックアップ/復帰」の各設定にアクセス可能
- モジュール設定：各モジュールの設定にアクセス可能
- リソース：管理者が Fiery Impose テンプレートや Image Enhance Visual Editor プリセット、カスタムブリフライトプロフィール、アクションリスト、変数セットを Enfocus PitStop Pro からインポート可能。Enfocus リソースを使用するためには、ライセンスされたバージョンの Fiery JobFlow が必要
- サインアウト：「ログイン」ウィンドウに戻る

アカウント設定

管理者は、Fiery JobFlow のアカウント設定を行います。

- 1 Fiery JobFlow サーバーに管理者としてログインします。
- 2 Fiery JobFlow ウィンドウ右上の「Admin」の隣の矢印をクリックします。
- 3 「アカウント設定」を選択します。
- 4 必要に応じて各タブをクリックし、「プロフィール」、「通知」、「ユーザー管理」、「サービス」、「場所」、および「バックアップ/復帰」を指定します。

プロフィール

プロフィール設定には、管理者用のユーザー権限設定とブラウザの言語設定があります。

- アカウント情報：管理者は、Fiery JobFlow の初期設定処理で入力したアカウント情報の表示と編集が可能。通知メールアドレスを設定するためには、管理者が EFI Passport で認証されている必要がある。初期設定後は、E メール、名前、電話番号のすべての変更が可能。このアカウント情報は、Fiery JobFlow サーバー管理者用

メモ：管理者としてログインしているすべてのユーザーがアカウント情報を変更できます。管理者ユーザーは複数設けることができます。

- パスワード：管理者パスワードを変更可能
- 言語：管理者は、ブラウザのデフォルトの言語を使用することも、別の言語を選択することも選択可能

通知

Eメール送信による通知のタイミングと頻度を指定できます。この設定は、Fiery JobFlow に送信されたすべてのジョブで使用されます。

通知メールアドレスを設定するためには、管理者が EFI Passport で認証されている必要があります。

- 送信：最大で4つまでのEメールアドレスが指定可能
- ジョブアクティビティ：「送信」で指定したアドレスにEメールを送信するタイミングを選択可能
右上隅の「デフォルト設定に復帰」ボタンをクリックしてデフォルトの設定に復帰することもできます。

ユーザー管理

どのユーザーが Fiery JobFlow にアクセスするかを管理します。

ユーザーを追加するには、「新規ユーザーを追加」ボタンをクリックします。次に、以下を指定します。

- ユーザー名：ユーザーの名前を入力
- 役割を選択：「管理者」、「オペレーター」、「ゲスト」、「外部レビュアー」のいずれかを選択
- EメールID：ユーザーのEメールアドレスを入力
確認の通知メールがユーザーに送信される

ユーザー名や役割を編集するには、「編集」ボタンをクリックします。ユーザーのEメールIDは編集できません。

ユーザーを削除するには、「削除」ボタンをクリックします。

サービス

Enfocus Monotype Baseline Service と SMTP 設定を管理し、ジョブの自動削除のスケジュールを設定します。

- Monotype Baseline Service：Enfocus は、PitStop ユーザーに欠落フォントサービスを提供している。Fiery JobFlow ユーザーが Monotype Baseline Service に登録していると、サービスは自動的に欠落しているフォントを検索して Fiery JobFlow に送信し、PDF に統合する。Fiery JobFlow では、アカウントの作成や管理を行うためのリンクが提供されている。登録を行うと、認証キーを受信する。デフォルトでは、「Enable Monotype Baseline Service」チェックボックスは選択されていない。サービスを有効にするには、チェックボックスを選択する
- SMTP：Eメール通知用に送信 SMTP サーバーを設定。ユーザーが自分のEメールサーバーから通知を送信する場合、ここで設定を行う。その他の通知は、EFI Notification Service から送信される
- プロキシ設定：プロキシサーバーを設定して有効化し、ファイアウォール越しに透過的な通信を実行
- ジョブを削除：必要に応じて、1、3、5、15、30、または60日ごとにジョブを自動削除するスケジュールを設定

場所

Fiery JobFlow の場所を追加すると、ジョブの送信、アーカイブ、出力を行う手段を追加で作成できます。

Fiery JobFlow のインストール時に、空き領域の多い Fiery JobFlow サーバードライブに SmartFolders という名前のルートフォルダーが自動的に設定されます。このフォルダー内に、Fiery JobFlow で作成するワークフ

ローゴとのフォルダーが作成されます。SmartFolders は、ジョブを送信するためのデフォルトの場所です。1つのジョブ、または複数のジョブの含まれるアーカイブ (.zip ファイル) を送信するには、コンピューターのデスクトップからブラウザへのドラッグ&ドロップ操作で行うことができます。

SMB、FTP、sFTP、または Fiery の場所を追加する場合には、「テスト接続」ボタンを選択して、接続が正しく確立されていることを確認します。場所の詳細情報および必要なユーザー名とパスワードは、各サービスの管理者に確認してください。

- 「SMB」：SMB の場所を追加する
- 「FTP」：FTP の場所を追加する。Fiery JobFlow によってデフォルトのポートが割り当てられる
- 「sFTP」：FTP の場所を追加する。Fiery JobFlow によってデフォルトのポートが割り当てられる
- 「Dropbox」：Fiery JobFlow では、同時に複数の Dropbox アカウントに接続可能。Fiery JobFlow サーバーの管理者がプライマリ Dropbox アカウントを設定すると、いつでもどこからでも、外部レビューアーによるジョブの承認や、内部レビューアーによるジョブの承認と却下にこれを使用できる
- 「Fiery」：Fiery サーバーまたは Fiery Central サーバーを出力場所として追加する

バックアップ/復帰

設定、リソース、ワークフローのバックアップと復帰が可能ですが、ジョブのバックアップや復帰はできません。

「アカウント設定」のタブから、バックアップ場所の指定や、バックアップや復帰を実行できます。バックアップを復帰する処理を行うと、Fiery JobFlow の現在のすべてのジョブが削除されます。

バックアップ

- 場所の選択：すでに Fiery JobFlow に追加されている場所 (SMB、FTP、sFTP、または Dropbox) から選択。それぞれの場所には、最大 30 までバックアップを作成可能。1つの場所で 31 個目のバックアップが開始される際に、一番古いバックアップが削除される。場所が選択されている場合、バックアップは 1 日 1 回自動的に作成される。対象の場所で、最低 50MB が使用可能であることを確認すること
- 「今すぐバックアップ」ボタン：クリックすると、アカウント設定、モジュール設定、リソース、ワークフローを手動でバックアップ

復帰

「復帰オプション」機能では、以下を選択することができます。

- 特定フォルダから復帰：特定のフォルダから復帰するバックアップファイルを選択可能
- 最新のバックアップから復帰：選択した場所に存在するバックアップが日付順に並べられたリストから選択。表の追加列には、バックアップファイルの名前と各ファイルの設定の詳細が表示される
- 「復帰」ボタン：バックアップの場所を選択後、このボタンをクリックして復帰を開始

モジュール設定

管理者は、Fiery JobFlow モジュールの設定をデフォルトから変更できます。

無料の Fiery JobFlow Base とライセンスされた Fiery JobFlow の両方で、「Fiery Preflight」、「Image Enhance」、「Impose」、「出力」モジュールが使用可能です。

- Fiery Preflight : Fiery Preflight のプリセットを選択。表示されるプリセットは、Fiery JobFlow が接続している Fiery サーバーに設定されているもの
メモ : Fiery Preflight には、Fiery サーバーでアクティベートされている Fiery Graphic Arts Package, Premium Edition が必要です。
- Image Enhance : Fiery Image Enhance Visual Editor からインポートされたプリセットのリストから選択
メモ : ジョブを送信する Fiery サーバーは、Fiery Graphic Arts Package, Standard または Fiery Productivity Package のどちらかをサポートしている必要があります。
- Impose : Fiery Impose からインポートされたテンプレートのリストから選択
メモ : Fiery JobFlow サーバーと同じコンピューターで Fiery Impose がアクティベートされてライセンスされている場合、デフォルトとカスタムの両方のテンプレートが選択できます。Fiery Impose がアクティベートされていない場合は、デフォルトのテンプレートのリストが選択できます。
- 出力 : Fiery サーバー、Fiery Central プリンターグループ、Dropbox アカウント、SMB、(s)FTP から、場所を選択。Fiery サーバーを選択した場合は、ジョブのプリセットを選択
メモ : 「出力」に表示されるためには、場所を設定する必要があります。

「承認」、「Correct」、「Preflight」モジュールは、ライセンスされた Fiery JobFlow でのみ使用可能です。

- 承認 : 承認のリマインダーを送信するスケジュールを設定
- Correct : 「Correct」モジュールのアクションのリストから選択
- Preflight : 「Preflight」メニューから選択

メモ : 管理者は、「Preflight」と「Correct」モジュールで使用するカスタム Enfocus PitStop Pro スマートプロファイル、アクションリスト、変数セットもインポートできます。

リソースのインポート

管理者は、ドラッグ&ドロップやファイルが格納されている場所に移動することによって、Enfocus PitStop Pro から Fiery Impose テンプレート、Image Enhance Visual Editor プリセット、カスタムスマートプリフライトプロファイル、アクションリスト、変数セットをインポートできます。

Enfocus PitStop Pro からのスマートプリフライトプロファイル、アクションリスト、変数セットのインポートには、ライセンスされている Fiery JobFlow を使用する必要があります。Fiery Impose テンプレートと Image Enhance Visual Editor プリセットは、Fiery JobFlow Base と Fiery JobFlow の両方で使用可能です。

Fiery Impose テンプレートと Image Enhance Visual Editor プリセットは、コンピューターの Command WorkStation がインストールされている次の場所に格納されています。

- Windows コンピューター：
 - Image Enhance Visual Editor プリセット：**C:\ProgramData\Image Enhance Visual Editor\Preset**
 - Fiery Impose テンプレート：**C:\Users\logged-in-user\Documents\Impose\template**
これはデフォルトの場所です。ユーザーは、この場所を Command WorkStation プリファレンスで変更することができます。
- Mac OS コンピューター：
 - Image Enhance Visual Editor プリセット：**Applications/Fiery/Image Enhance Visual Editor/Image Enhance Visual Editor.app**
上記の場所を右クリックし、「パッケージの内容を表示」 > 「Contents/SharedSupport/Preset」を選択します。
 - Fiery Impose テンプレート：**\Users\logged-in-user\Documents\Impose\template**
これはデフォルトの場所です。ユーザーは、この場所を Command WorkStation プリファレンスで変更することができます。

プリフライトプロファイル、アクションリスト、変数セットは、Fiery JobFlow にインポートする前に PitStop Pro で作成し、エクスポートしておく必要があります。PitStop Pro の標準プリフライトプロファイルとアクションリストは、デフォルトで「Preflight」と「Correct」モジュールに表示されています。

- 1 Fiery JobFlow にシステム管理者としてログインします。
- 2 Fiery JobFlow ウィンドウ右上の「Admin」の隣の矢印をクリックします。
- 3 リソースを選択します。
- 4 「アップロードするファイルをドロップしてください」をクリックしてリソースの場所に移動し、「開く」をクリックします。
- 5 または、インポートしたいファイルを見つけ、「アップロードするファイルをドロップしてください」にドラッグします。

ファイルのフォーマットが正しくない場合、サポートされていないファイル形式であることを示すメッセージが表示されます。ファイルは、いずれかの PitStop Pro ファイル形式で保存されている必要があります (.ppp、.eal、.evs)。1 度に複数のファイル形式をまとめてアップロードしてインポートすることができます。

ワークフローの作成

ユーザーはモジュールを追加してワークフローを作成します。「入力ソース」、「変換」、「出力」の各モジュールは自動的にワークフローに追加されます。

また、「Fiery Preflight」、「Preflight」、「高品位イメージ画像」、「面付け」、「Correct」、「承認」のモジュールを追加することもできます。詳細については、[モジュールについて](#)（13 ページ）を参照してください。

ワークフローは、ワークフロー内の各モジュールを編集したり、モジュールの順序を変更したりして編集できます。

- 1 「ワークフロー」タブの「ワークフロー」ヘッダーの隣にあるプラス記号 (+) をクリックします。
- 2 ワークフローの名前を入力します。
- 3 「作成」をクリックします。
- 4 「入力ソース」の「編集」ボタンをクリックし、場所の一覧から場所を選択します。
最大4つの入力ソースを追加できます。
ワークフローの保存場所が表示されます。
- 5 「変換」ペインで、必要に応じて「ルール」を選択します。「追加」をクリックし、選択を行い、「保存」をクリックします。
ジョブの失敗や成功などのトリガーに応じたアクションを指定できます。指定できるアクションとして、Eメール通知の送信やジョブのアーカイブなどがあります。
- 6 「変換」モジュールの下のプラス記号 (+) をクリックし、「Fiery Preflight」、「Preflight」、「高品位イメージ画像」、「面付け」、「Correct」、「承認」のいずれかのモジュールを追加します。
情報については、[プリフライト設定](#) (16 ページ)、[修正の設定](#) (18 ページ)、[Impose 設定](#) (17 ページ) および[承認の設定](#) (19 ページ) を参照してください。
- 7 それぞれの設定を指定し、「保存」をクリックします。
- 8 「出力」ペインで、Fiery サーバー、Dropbox アカウント、SMB、(s) FTP の場所から選択します。
Fiery サーバーを選択した場合は、プリセットを選択し、「保存」をクリックします。
「出力」モジュールにも、「変換」モジュールの場合と同様のルールを追加できます。
- 9 ワークフローを編集するには、「ワークフロー」タブでワークフローを選択し、「ワークフロー編集」アイコンをクリックします。
次に、モジュールを選択し、「編集」アイコンまたは「削除」アイコンをクリックします。
- 10 ワークフロー内のモジュールの順序を変更するには、編集ウィンドウの右側のペインでモジュールを選択し、目的の新しい場所へドラッグします。

モジュールについて

Fiery JobFlow で作成する各ワークフローは、ジョブファイルに特定のアクションを実行する一連のモジュールで構成されます。さまざまな種類のジョブに複数のワークフローを作成でき、それぞれに異なるモジュールグループを含めることができます。

Fiery JobFlow では次のモジュールを使用できます。

「Fiery Preflight」：ジョブを印刷する前にエラーの有無を確認するために、出力用に指定した Fiery サーバーに設定されている Fiery Preflight のプリセットを使用します。Fiery サーバーに設定されているすべてのプリセットが表示されます。プリセットが1つも設定されていない場合は、デフォルトのプリセットが表示されます。

「入力ソース」：ワークフローの入力ソースとして使用します。さまざまな場所からファイルをインポートできます。SMB、FTP または sFTP、Dropbox アカウント、あるいは Fiery JobFlow サーバーに設定されている SmartFolder からインポートできます。単一のジョブ、複数のファイル、またはアーカイブ (.zip ファイル) をコンピューターのデスクトップからブラウザウィンドウ内のワークフロー名へドラッグ&ドロップ操作して送信することもできます。

「承認」：承認を受けるためにレビュアーにジョブを送信します。Fiery JobFlow ユーザーまたは外部レビュアーをレビュアーにすることができます。Fiery JobFlow ユーザーは、どこからでもジョブを承認または却下で

きます。外部レビューは、Fiery JobFlow を直接使用することはできませんが、Fiery JobFlow 管理者から E メールでジョブのレビュー依頼を受け取ります。外部レビューは、ジョブのコンテンツと PitStop Enfocus レポートを確認して、ジョブを承認または却下できます。

「変換」：さまざまな種類のファイルを処理して Adobe PDF ファイルに変換します。次の種類のファイルをサポートしています。Microsoft Word/PowerPoint/Excel/Publisher、GIF、PICT、DIB、JPEG、PNG、TIFF、BMP、PostScript です。

「Preflight」：Enfocus PitStop PDF プロファイルに基づいて受信ジョブを検査します。プリフライトでは、使用する PitStop PDF プロファイルで定義されている基準に PDF ファイルが従っているかどうかを確認します。プリフライトプロファイルは、「プロファイル」メニューからプロファイル名を選択すると表示できます。標準のプリフライトプロファイルを選択するか、Enfocus PitStop Pro で作成した変数セットをスマートプリフライトプロファイルに適用することができます。

「高品位イメージ画像」：PDF ドキュメント内の画像を自動的に補正します。Fiery JobFlow サーバーにインストールされている Command WorkStation の Image Enhance Visual Editor のプリセットを選択します。ジョブの送信先となる Fiery サーバーで、Fiery Graphic Arts Package, Standard または Fiery Productivity Package をサポートしている必要があります。

「面付け」：各種の面付けテンプレートをジョブに適用します。Fiery Impose のテンプレートを使用するには、Fiery JobFlow と同じコンピューターに Command WorkStation v5.5 がインストールされている必要があります。面付けテンプレートには、Fiery Impose に付属しているデフォルトのテンプレートと、作成したカスタムテンプレートがあります。Fiery Impose のアクティブライセンスがある場合、カスタムとデフォルトの両方のテンプレートを使用できます。

「Correct」：受信ジョブに Enfocus PitStop のアクションを適用します。ワークフローに追加されたアクションは、ページ番号の追加、色の変換、画像の解像度の調整などの修正を自動的に適用するために使用されます。標準のアクションリストから選択するか、Enfocus PitStop Pro で作成した変数セットをスマートアクションリストに適用することができます。

「出力」：セットアップ時に選択した Fiery サーバーまたは Fiery Central のプリンターグループ、Dropbox アカウント、SMB、(s) FTP のいずれかの場所から選択できます。選択した Fiery サーバーまたは Fiery Central のプリンターグループの場合、表示されるプリセットのリストから選択できます。これらのプリセットは、選択した Fiery サーバーまたは Fiery Central のプリンターグループのサーバープリセットです。

管理者は、モジュール設定を指定および設定できます。詳細は、[モジュール設定](#)（11 ページ）を参照してください。

ワークフローの複製

任意のワークフローを複製し、それを修正して新しいワークフローを作成できます。この作業手順は、標準のデフォルトワークフローがあるが、ジョブは微妙に異なる環境で便利です。

- 1 「ワークフロー」タブをクリックします。
- 2 「ワークフロー」ヘッダーの「ワークフローの複製」アイコンをクリックします。
- 3 ワークフローの名前を入力して「作成」をクリックします。

ワークフローの編集が可能になります。

ワークフローへのルールの追加

ワークフロー内のモジュールにルールを追加することができます。

「出力」モジュール以外の各モジュールには、モジュールが失敗するか成功するかに応じて実行されるアクションを設定できます。

次のようなルールを追加できます。

- 「Eメールを送信」：ユーザーを選択する
- 「ジョブをアーカイブ」：場所を選択する
- 「ジョブをコピー」：ジョブのコピー先となるワークフローを選択する。「変換」、「面付け」、「高品位イメージ画像」、「Fiery Preflight」のいずれかを選択する
- 「ジョブを移動」：ジョブの移動先となるワークフローを選択する。「変換」、「面付け」、「高品位イメージ画像」、「Fiery Preflight」のいずれかを選択する

「ジョブを移動」アクションは、Enfocus PitStop プリフライトプロファイルまたはアクションリストを使用する「Correct」または「Preflight」モジュールが失敗したジョブの場合のみ使用できます。

入力ソース

Fiery JobFlow では、さまざまな入力ソースをワークフローに使用できます。

さまざまな場所からファイルをインポートできます。SMB、FTP または sFTP、Dropbox アカウント、あるいは Fiery JobFlow サーバーに設定されている SmartFolder からインポートできます。単一のジョブ、複数のファイル、またはアーカイブ（.zip ファイル）をコンピューターのデスクトップからブラウザウィンドウ内のワークフロー名ヘドラッグ&ドロップ操作して送信することもできます。入力ソースは、ワークフロー内で SmartFolder として表示されます。複数のジョブが含まれるアーカイブまたはフォルダーを送信すると、Fiery JobFlow ではそれらのジョブがマージされるので注意してください。ジョブのマージは、ファイル名/ジョブ名のアルファベット順に行われます。

複数のジョブが含まれるアーカイブファイルは、すべての入力ソースに送信できます。複数のジョブが含まれるフォルダーは、Dropbox 以外の入力ソースに送信できます。

SMB、FTP または sFTP、Dropbox の場所は Fiery JobFlow 管理者が設定する必要があり、「システム管理者」>「アカウント設定」>「場所」で各種類について複数の場所を設定できます。

SmartFolder は、特定のワークフローにジョブを送信するための入力キューの役割をするフォルダーです。ワークフローと SmartFolder は 1 対 1 で対応します。各 SmartFolder は、Fiery JobFlow のインストール時に自動的に設定される「SmartFolders」というルートフォルダーの下に作成されます。

Fiery Preflight

Fiery Preflight を使用すると、印刷前にジョブをチェックし、印刷エラーを低減して無駄なコストを削減することができます。Fiery Preflight では、ジョブの印刷が正しく行われ、選択したプリンターで予想通りの印刷結果が得られるようにするために、エラーが発生しやすい領域をチェックできます。

Fiery Preflight では、エラーだけでなく、セキュリティ設定、ページサイズ、色空間などジョブに関する情報のレポートも生成されます。

Fiery Preflight の設定は、プリセットとして保存できます。Command WorkStation で Fiery Preflight のプリセットを設定して、チェックするエラーのカテゴリーとエラーのレポート方法を指定することができます。接続先の Fiery サーバーに設定されているすべてのプリセットが Fiery JobFlow に表示されます。

Fiery Preflight では次のファイル形式がサポートされています。PostScript、PDF、EPS、PPML、Creo VPS、および PDF/VT です。

TIFF および PCL ファイル形式は Fiery Preflight でサポートされていません。

Fiery Preflight では、次のカテゴリーのエラーをチェックできます。

- 「フォント」 - フォント不足、および Courier フォントの置換
- 「スポットカラー」 - 不足しているスポットカラー。不足しているスポットカラーは、Command WorkStation の「スポットカラー」で追加できる
- 「画像解像度」 - 指定値以下の画像の解像度
- 「バリエーション印刷リソース」 - 不明のバリエーション印刷のリソース。チェックするレコード数を指定して、処理時間が長くなるのを防ぐことができる
- 「ヘアライン」 - 指定値以下のヘアライン幅
- 「オーバープリント」 - オーバープリント
- 「PostScript」 - PostScript エラー

メモ： Fiery Preflight エラーでジョブがエラーになった場合、そのジョブが割り込みジョブのときやそのエラーが出力を中止するほど重要でないときは、エラーを上書きすることができます。そのようなジョブは、Fiery JobFlow ウィンドウの「ジョブ」タブの「エラージョブ」ペインに表示されます。「上書き」をクリックすると、エラーが上書きされてジョブが完了します。モジュールに「移動」ルールまたは「コピー」ルールが定義されている場合は、「上書き」オプションは表示されません。「上書き」オプションは、「Correct」モジュールと「Preflight」モジュールでも同じ制約付きで使用可能です。

プリフライト設定

Enfocus PitStop PDF プロファイルを適用して受信ジョブを検査します。プリフライトでは、使用する PitStop PDF プロファイルで定義されている基準に PDF ファイルが従っているかどうかを確認します。

プリフライトプロファイルは、「プロファイル」メニューからプロファイル名を選択すると表示できます。

Monotype Baseline Service が設定されている場合は、「Preflight」モジュールで「Monotype Baseline Service で自動的に欠落フォントを確認する」オプションを使用できます。このオプションを選択すると、Fiery JobFlow によって Monotype サービスから欠落フォントが自動的にダウンロードされます。

PitStop Pro の変数は、定数またはルールベースのいずれかです。定数の変数は、文字列、数値、測定値、yes/no 値または on/off 値です。ルールベースの変数では、別のプリフライトチェックで値の変化を決定する定数の変数を使用できます。たとえば、変数の定義が出力の種類であり、可能な値が digital、offset など複数ある場合には、その値に応じて画像の解像度が変わります。

メモ：「Preflight」モジュールでジョブが失敗した場合、そのエラーを無視することを選択できます。そのようなジョブは、Fiery JobFlow ウィンドウの「ジョブ」タブの「エラージョブ」ペインに表示されます。「上書き」をクリックすると、エラーが上書きされてジョブが完了します。モジュールに「移動」ルールまたは「コピー」ルールが定義されている場合は、「上書き」オプションは表示されません。

スマートプリフライト設定の適用

スマートプリフライトプロファイルを使用することも可能です。

スマートプリフライトを使用するには、「プリフライトプロファイル」で使用する変数セットを作成する必要があります。

変数セットとは、Fiery JobFlow にアップロードできる編集可能なファイル形式で保存された一連の変数です。変数セットはいくつでも定義でき、各変数セットにはいくつでも変数を含めることができます。しかし、一度に1つの変数セットしかアクティベートできません。

1 「ワークフロー」タブで、ワークフローを選択し、「編集」アイコンをクリックします。

2 新しいモジュールを追加するモジュール名の下のプラス記号をクリックします。

3 「モジュールの追加」で「Preflight」を選択します。

4 「プロファイル」ドロップダウンメニューからスマートプリフライトプロファイルを選択します。

すべてのスマートプリフライトプロファイルが、「Custom Smart PDF Profiles」ヘッダーの下に表示されません。Fiery JobFlow は、サンプルのプロファイル「Smart Preflight - PitStop Pro v1.1」を提供しています。

5 表示されている変数セットの変数を変更するには、「変数を変更」をクリックします。

変数セットには、ブール演算子、数値やテキスト、および変数のリストを含めることができます。ドロップダウンメニューが使用可能な場合は、そこから選択して変数を変更します。または、テキストフィールドに内容を入力します。変数の説明を表示するには、カーソルをテキストフィールドの上に移動します。

6 必要に応じて変数を変更し、「保存」をクリックします。

7 「追加」をクリックします。

Impose 設定

Fiery Impose からデフォルトまたはカスタムの面付けテンプレートを追加します。

<http://w3.efi.com/Fiery/Products/CWS5> から入手可能な最新バージョンの Command WorkStation は、Fiery JobFlow サーバーと同じコンピュータにインストールする必要があります。また、カスタムテンプレートにアクセスするには、Fiery Impose のライセンスがアクティベートされている必要があります。

メモ： Fiery Impose は、Command WorkStation ソフトウェアとともにインストールされます。

デフォルトのテンプレートは、Fiery Impose のライセンスがなくても使用できます。次のリストには、すべてのデフォルトのテンプレートが記載されています。

普通

- 1-up フルブリード

ブックレット

- 2-up 無線とじ
- 2-up 中とじ
- 4-up 四つ折り

ギャングアップ

- 3-up 巻き三つ折り
- 4-up 内巻き四つ折り
- 4-up Z折り

修正の設定

受信ジョブに Enfocus PitStop のアクションを適用します。ワークフローに追加されたアクションは、ページ番号の追加、色の変換、画像の解像度の調整などの修正を自動的に適用するために使用されます。

Monotype Baseline Service が設定されている場合は、「Correct」モジュールで「Monotype Baseline Service で自動的に欠落フォントを確認する」オプションを使用できます。このオプションを選択すると、Fiery JobFlow によって Monotype サービスから欠落フォントが自動的にダウンロードされます。

PitStop Pro の変数は、定数またはルールベースのいずれかです。定数の変数は、文字列、数値、測定値、yes/no 値または on/off 値です。ルールベースの変数では、別のプリフライトチェックで値の変化を決定する定数の変数を使用できます。たとえば、変数の定義が出力の種類であり、可能な値が digital、offset など複数ある場合には、その値に応じて画像の解像度が変わります。

メモ：「Correct」モジュールでジョブが失敗した場合、そのエラーを上書きすることを選択できます。そのようなジョブは、Fiery JobFlow ウィンドウの「ジョブ」タブの「エラージョブ」ペインに表示されます。「上書き」をクリックすると、エラーが上書きされてジョブが完了します。モジュールに「移動」ルールまたは「コピー」ルールが定義されている場合は、「上書き」オプションは表示されません。

スマートアクションリスト設定の適用

スマートアクションリストを使用することも可能です。

スマートアクションリストを使用するには、アクションリストで使用する変数セットを作成する必要があります。

変数セットとは、Fiery JobFlow にアップロードできる編集可能なファイル形式で保存された一連の変数です。変数セットはいくつでも定義でき、各変数セットにはいくつでも変数を含めることができます。しかし、一度に 1 つの変数セットしかアクティベートできません。

- 1 「ワークフロー」タブで、ワークフローを選択し、「編集」アイコンをクリックします。
- 2 新しいモジュールを追加するモジュール名の下プラス記号をクリックします。
- 3 「モジュールの追加」で「Correct」を選択します。
- 4 「アクション」ドロップダウンメニューからスマートアクションリストを選択します。

すべてのスマートアクションリストが、「Custom Smart Action Lists」ヘッダーの下に表示されます。Fiery JobFlow は、サンプルのアクションリストを提供しています。

- 5 表示されている変数セットの変数を変更するには、「変数を変更」をクリックします。

変数セットには、ブール演算子、数値やテキスト、および変数のリストを含めることができます。ドロップダウンメニューが使用可能な場合は、そこから選択して変数を変更します。または、テキストフィールドに内容を入力します。変数の説明を表示するには、カーソルをテキストフィールドの上に移動します。変更できない変数は定数です。

- 6 必要に応じて変数を変更し、「保存」をクリックします。
- 7 「追加」をクリックします。

承認の設定

ワークフローに対するレビューアを指定します。Fiery JobFlow ユーザーは、Fiery JobFlow でジョブを承認できる内部レビューアになることができます。あるいは、「Approve Anywhere」オプションが選択されている場合は、Dropbox でジョブを参照できます。

外部レビューアは、Fiery JobFlow に直接アクセスすることはできませんが、E メールによる連絡が行われます。ジョブを承認または却下する依頼を受け取ったときと、その後にジョブを承認するときに、ジョブの内容やすべての「Preflight」または「Correct」レポートを参照できます。

- 1 「内部レビューア」または「外部レビューア」のどちらかを選択します。
- 2 「内部レビューア」を選択すると、レビューアにどの場所からでもジョブのレビューを行わせることができます。
- 3 「レビューアを選択」フィールドで、リストから選択してレビューアを追加します。

内部または外部レビューアには、最大 2 人のレビューアを追加できます。そのためには、ユーザー名、役割、E メールアドレスを指定します。レビューアになるための招待メールが送信されます。

ジョブ情報

すべてのユーザーは、Fiery JobFlow インターフェイスでジョブを送信したり、ジョブの進捗を監視できます。

ジョブは様々なファイル形式で送信できます。「変換」モジュールがファイルを Adobe PDF に変換します。ジョブが送信されると、ジョブは直ちに選択されたワークフローで処理されます。

ジョブの送信

ジョブを送信するには、デフォルトの場所である Smart Folders を使用するか、SMB、FTP、sFTP、Dropbox を使用したり、ドラッグ&ドロップ操作を使用したりできます。

SmartFolders は、Fiery JobFlow のインストール時に、空き容量の多いコンピュタードライブにルートフォルダーとして自動的に作成されます。Fiery JobFlow にワークフローを作成すると、SmartFolders フォルダー内に、ワークフロー名と同じ名前の対応するフォルダーが作成されます。SmartFolders はネットワーク上で共有され、ネットワーク上のすべての Windows または Mac コンピュターから SMB でアクセスできます。IP アドレスやドメイン名については管理者に確認してください。コピー&貼り付けまたはドラッグ&ドロップ操作を使用して、ジョブを特定の SmartFolder に送信できます。

それ以外にもさまざまな場所からジョブを送信できます。

- Dropbox
- SMB
- FTP
- sFTP
- コンピュターデスクトップから、Fiery JobFlow を開いているブラウザーへのドラッグ&ドロップ操作

これらの場所は、管理者が「アカウント設定」ウィンドウから設定し、それぞれの種類について複数の場所を追加できます。完了したジョブとエラーになったジョブの両方を任意の場所にアーカイブできます。

ジョブは、1 つのファイル、フォルダー、またはアーカイブ (.zip ファイル) として送信できます。複数のファイルが含まれるフォルダーまたはアーカイブを送信すると、それらのファイルは Fiery JobFlow によって 1

つのジョブに結合されます。ファイルのマージは、ファイル名/ジョブ名のアルファベット順に行われます。フォルダーは、Dropbox 以外の入力ソースに送信できます。アーカイブや単一ファイルは、すべての入力ソースに送信できます。

ジョブの監視

「ジョブ」タブで、「概要」または「すべてのジョブ」を選択してジョブを監視します。

概要：進行中のジョブ、エラージョブ、完了したジョブのステータスをリアルタイムに表示します。エラージョブや完了したジョブは、「削除」アイコンをクリックして削除できます。進行中のジョブ、キューの中にあるジョブ、承認待ちのジョブを削除したい場合は、ジョブをキャンセルしてから削除します。

メモ：「概要」タブには、ジョブやレポートを表示するリンクが表示されています（ワークフローの「Fiery Preflight」、「Preflight」、「Correct」モジュールを使用するジョブの場合）。[ジョブの表示](#)（20 ページ）および[ジョブレポートの生成](#)（20 ページ）を参照してください。

すべてのジョブ：「エラージョブ」、「進行中のジョブ」、「キュー内のジョブ」、「完了したジョブ」、「承認待ちのジョブ」という分類で、さらに詳しいジョブ情報が提供されています。入力ソースと送信日または完了日が表示されます。ワークフローが「Fiery Preflight」、「Preflight」、「Correct」モジュールのいずれかを使用したジョブには、「レポートを表示」リンクが表示されます。

ジョブの表示

Fiery JobFlow に送信されたジョブの内容について、サムネイルまたは全体を表示します。

- 1 「ジョブ」タブを選択します。
- 2 「概要」タブを選択します。
- 3 表示したいジョブの「ジョブの表示」をクリックします。
- 4 ジョブ全体を開くには、サムネイルプレビューウィンドウのいずれかのページをクリックします。

ジョブレポートの生成

エラーとなったジョブや処理が成功したジョブのレポートを表示できます。

エラーによってジョブの処理が失敗した場合、「ジョブ」タブの「エラージョブ」のリストに表示されます。「Fiery Preflight」、「Preflight」、「Correct」モジュールのいずれかでジョブが失敗した場合、Fiery サーバーまたは Enfocus PitStop Pro がそれぞれ生成したレポートを表示できます。ジョブで使用されたワークフローを表示するには、「ジョブ」タブのジョブ名をクリックします。

- 1 「ジョブ」タブを選択します。
- 2 「概要」タブを選択します。
- 3 「エラージョブ」のリストから失敗したジョブを選択するか、「完了したジョブ」のリストから処理が成功したジョブを選択します。
- 4 「レポートを表示」をクリックします。

「すべてのジョブ」タブからもレポートを表示できます。